

実施要領 様式11(第13条関係)
 【認知症対応型共同生活介護用】

評価結果公表票

作成日 平成19年9月14日

【評価実施概要】

事業所番号	272100967
法人名	社会福祉法人鯉ヶ沢町社会福祉協議会
事業所名	鯉ヶ沢町社会福祉協議会グループホーム安心住宅
所在地	鯉ヶ沢町大字種里町字前田37-3 (電 話) 0173-79-2282
評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成19年6月30日

【情報提供票より】(平成19年5月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成16年8月9日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	7 人	常勤 7人, 非常勤 0人, 常勤換算 7人	

(2)建物概要

建物構造	木造モルタル平屋 造り
	階建ての ～ 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	3,000 円	その他の経費(月額)	理美容代実費ほか 円
敷 金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 円 昼食 円	夕食 円 おやつ 円	
	または1日当たり 1,000 円		

(4)利用者の概要(5月1日現在)

利用者人数	7 名	男性	1 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.2 歳	最低 66 歳	最高 94 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	鯉ヶ沢町立中央病院(内科・外科・歯科)
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域住民を会員とする町社会福祉協議会が経営するグループホームであり、住民がこれまで利用してきた保育所を有効活用して設置され、住民にとって身近な存在となっている。

ホーム内は保育所の面影が残っており、広い舞台付きの遊戯室には近隣の子供たちが自由に出入りするほか、行事開催時には住民との交流の場となっている。また、農繁期にはホームの駐車場や空き地を農家の方々に自由に利用してもらい等、日常的な交流を大切にしており、住民が農産物を持ってホームに遊びに来る等の良好な関係が築かれている。

利用者一人ひとりの生活歴や願い、その人らしい暮らしを大切にしており、家庭菜園等の得意な活動を促したり、収穫を通して利用者の充実感や満足感を味わえるよう支援している。

設備等の面から終末期への対応は行われていないが、医療機関や他の福祉施設等と連携を図り、利用者と家族が安心して退居できる支援を行っている。また、法人の栄養士の協力を得て、摂取カロリー等を確認してもらったり、指導を仰ぐ等、利用者の健康管理に努めている。

【特に改善が求められる点】

夜間を想定した避難訓練を行う等の災害時に備えた対策を行っているが、災害時にあわてないように、食料や飲料水等の備蓄品を用意してはどうか。

虐待が起こらないよう管理者が職員のケアの状況を観察する等の取り組みは行われているが、職員間での勉強会や話し合い等を通して、虐待発見時の対応方法等の取り決めを作成することに期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 管理者や職員は評価の意義等を理解しており、前回の評価結果を会議等で話し合い、改善に向けて前向きに取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は初めに職員個々が作成し、それを全職員で話し合っ完成させている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は年2回開催しており、利用者やホームの状況、自己評価や外部評価の結果を報告し、委員から助言や要望等を出してもらっている。また、会議で出された意見等はミーティングで話し合うとともに、法人内の上司に相談する等、サービスの質の向上に努めている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11) 家族が要望等を話やすいよう定期的に暮らしぶりや健康状態等について報告している。また、重要事項説明書や広報紙等でホーム内外の苦情受付窓口を継続的に家族に周知し、意見等を話しやすいよう配慮している。家族の意見や苦情をより良いサービスにつなげるため、苦情等の対応の仕組みを整えている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 日常的に住民との交流が図られており、ホームの空き地を無料開放したり、子供たちが遊びにきて利用者とおやつを食べる等、良好な関係が築かれている。また、宵宮や小学校の運動会の見学等にも出かけており、地域住民と接触する機会を多く持ち、地域に馴染んだホーム作りが行われている。

【各領域の取組状況】

領 域	取り組み状況
I 理念に基づく運営	管理者は、利用者が地域の中で住民と触れ合いながら生活することの意義を理解しており、日常的に住民との交流が図れるよう取り組んでいる。また、「自然豊かな地域の中で、その人らしさを大切に、一人ひとりに寄り添い支援する」という理念を掲げ、職員間で理念を共有できるよう事務室に掲示しているため、全職員は理念を十分理解し、その実践に努めている。 町内のグループホームで連絡会を設けており、会議で出された問題点等は市町村や広域のグループホーム協会に打診する等、地域全体で質の向上に努めている。
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	利用希望者には事前に見学してもらったり、家族や担当ケアマネジャーに同行してもらう等、利用者や家族が安心して利用できるよう支援している。 利用者一人ひとりの生活歴等を把握しており、畑仕事等の得意なことを手伝ってもらい、その後は感謝の言葉を伝える等、利用者と職員が共同しながら生活している。また、理念にあるように一人ひとりに寄り添って支援することにより、安心と信頼が得られるよう努めている。
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	利用者の言動や家族の情報を基にニーズを把握し、職員間での話し合いを行った上で個々の希望を大切に介護計画を作成している。また、計画の見直しは必要に応じて家族と相談しながら行っている。 利用者や家族が希望する医療機関での受診を支援するほか、状態変化時等には利用者や家族の了解を得た上で専門医への受診変更を行う等、より良い治療が受けられるよう適切な支援を行っている。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	早朝からの菜園作り等、利用者一人ひとりの生活リズムや自発性を尊重し、過度な干渉はせずに見守りを行い、その人らしく暮らせるよう支援している。また、利用者と一緒に食材の買い物に出かけて好きな食材を購入する等、個々の希望に応じた支援も行われている。 職員は身体拘束の内容やその弊害等を理解し、拘束のないケアを提供するほか、利用者が出入りする場所は施錠しない等、利用者の安心感につながるよう配慮している。また、感染症に関するマニュアルの作成等にも取り組んでおり、利用者の安全確保にも努めている。

評 価 報 告 書

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者は、利用者が地域の中で住民と触れ合いながら暮らすことの意義を理解しており、「自然豊かな地域の中で、その人らしさを大切に、一人ひとりに寄り添い支援する」というホーム独自の地域密着型サービスの役割を意識した理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を事務室に掲示する等の取り組みにより、全職員への周知を図っており、職員は理念を十分に理解した上で日々のケアを提供している。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	周辺には水田や住宅があり、農家の人たちが立ち寄ったり、収穫した野菜等を持ってきてくれるほか、子供たちが遊びに来たり、利用者と一緒におやつを食べる等の交流が図られている。農繁期には農家の人たちにホーム空き地を駐車場として利用してもらったり、宵宮や小学校の運動会の見学に出かける等、地域住民との交流を深め、ホームを理解してもらえるような取り組みが行われている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員は評価の意義等を理解しており、職員個々が作成した自己評価を全職員で話し合って完成させている。また、外部評価の結果を会議等で話し合い、改善に向けて前向きに取り組んでいる。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を年2回開催しており、自己評価や外部評価の結果を報告するほか、利用者やホームの状況報告等を行い、委員からの質問や助言、要望等を受けている。また、委員からいただいた意見等は法人内の上司と相談し、サービス向上につなげている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政にパンフレットや広報誌を配布して情報提供を行うほか、相談したり助言をもらう等の連携が図られている。また、利用者の要望を伝え、除雪対策を講じてもらう等、行政と共同して利用者の生活を支えている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、地域福祉権利擁護事業を利用している方がおり、社会福祉協議会担当者から情報収集をしていたため、職員は制度の概要を理解している。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎日行っているミーティング等を利用して虐待についての理解を深めている。特に言葉による虐待がないよう管理者が指導するほか、管理者も利用者へのケアを実践しながら職員の対応を観察し、虐待を未然に防ぐよう努めているが、虐待を発見した場合の対応方法等の取り決めが作成されていない。	○	虐待は絶対に行わないという認識で日々のサービスを提供しているが、虐待の発見時等に備えてその対応手順等の取り決めをマニュアルとして作成し、全職員へ周知すると、より良いのではないかな。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明書を基に、ホームが提供できるサービスと提供できないサービス、状態変化時の対応等について詳細に説明を行い、理解を得ている。また、退居時にも十分に説明を行い、納得してもらっている。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の利用料支払い時に行事等の写真を見てもらったり、身体状態の変化や預かり金の収支状況等を報告し、確認してもらっている。また、なかなかホームに來れない家族には近況を記載した手紙を郵送している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホーム内外の苦情受付窓口を明示するほか、ホーム内に掲示している。また、広報誌に記載する等、家族が苦情等を話しやすいよう継続的に周知している。家族から苦情等が出された時の対応方法を図示する等、家族の意見をより良いサービスにつなげるための仕組みが整えられている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限に留めるよう法人として配慮するほか、異動時には利用者が馴染めるまで、これまでの職員と新しい職員が一緒に行動し、引き継ぎを行っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を作成し、内部研修を行うほか、日々の勤務体制に配慮しながら外部研修に職員を派遣している。研修受講後は報告書を提出し、伝達勉強会を行っている。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内のグループホームで連絡会を設けており、2ヶ月毎に会議を開催し、情報交換を行っている。また、会議で出された問題点等は市町村や広域地区のグループホーム協会に打診する等、地域全体でサービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者には事前に見学してもらうほか、家族や担当ケアマネジャーに同行してもらう等、利用者や家族が安心してサービスを開始できるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者のその時々々の心身の状態を把握しながら、個々の得意分野である畑仕事や家事等を手伝ってもらっている。また、手伝ってもらったことには感謝の言葉を伝えている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の利用者の言動から希望等を把握するとともに、本人の生活歴や意向等を家族から聞いている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時には利用者や家族から情報収集を行い、得られた情報を基に全職員でカンファレンスを行っており、利用者が自分らしく暮らせるよう、できない部分を支援することに焦点を当てた介護計画を作成している。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヵ月毎に見直しを行っている。常に利用者の状況等に変化がないか観察しており、状態変化時等にはその都度カンファレンスを開催し、見直しを行っている。また、見直し時には、必要に応じて家族や関係者との話し合いを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の希望に応じて、受診支援や外出支援等を適宜行っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの受療状況を把握しており、利用者や家族が希望する医療機関での受診を支援している。また、状態変化時には利用者や家族の了解を得た上で専門医への変更を行い、より良い治療が受けられるよう支援している。受診結果は必ず家族に報告し、共有している。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期には対応していないが、協力施設や協力医療機関に対応を依頼している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の言動を否定することなく、失禁時は居室や浴室で対応する等、日常的な言葉遣いや対応は一人ひとりの羞恥心に配慮して行うよう職員間で統一している。また、職員は個人情報保護法について理解しており、利用者に関する書類は訪問者等の目につかない場所に保管する等の対応を行っている。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先したり、利用者の言動を急かしたりしないよう、日常的に職員間で話し合って、利用者個々のペースを大切に支援を実践している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に食材の買出しに出かける等、一人ひとりの好みに配慮した献立を作成している。また、利用者に味見をしてもらったり、食後の片づけを一緒に行うほか、食事は毎食職員も一緒に摂る等、楽しみながら食事が摂れるよう配慮している。また、食べこぼし等へのサポートも行っている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回を基本としているが、希望があればいつでも対応している。入浴を拒否する利用者には声がけに工夫したり、シャワー浴や足浴等を促し、無理強いしないよう配慮している。また、入浴の順番の希望を聞いたり、つかりすぎ等がないよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴等を把握しており、張り合いを持てるよう、畑仕事等の得意なことを自発的に行えるよう促している。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、名所見学等、外出の機会を多く設けている。事前に伝えると興奮する利用者には、直前に誘う等の配慮を行い、できる限り全利用者が出かけられるよう工夫している。また、その日の利用者の状態にも配慮して外出支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の内容や弊害等を理解し、拘束は行わないという姿勢で日々のケアを提供している。また、やむを得ず拘束を行う場合は理由等を記録するなどの対応方法についても理解している。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や居室等、利用者が日常的に出入りする場所は鍵を掛けていない。やむを得ず施錠する場合には家族の同意を得る仕組みとなっている。外出傾向を察知できるよう、玄関等に鈴を付けたり見守りを行っており、察知した時は付き添う等の支援を行っている。また、無断外出時には近隣からの協力が得られるよう働きかけを行っている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間を想定した訓練も含め、年2回の避難訓練を実施している。運営推進会議を通して地域住民の協力が得られるよう働きかけを行う予定となっているが、災害時の備蓄品を用意するまでには至っていない。	○	災害発生時に備え、食料や飲料水、寒さをしのげる物等の備蓄品を数日分用意してはどうか。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの水分や食事の摂取状況を毎日チェック表に記録し、把握している。また、職員が献立を作成しているが、3ヶ月に1回、法人の栄養士にカロリー計算をしてもらう等、助言や指導が得られる体制となっている。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防等に関するマニュアルが作成されており、保健所等から情報収集を行い、必要に応じて見直しを行っている。また、流行時には予防を徹底するとともに家族の同意を得た上でインフルエンザの予防接種を行う等の対応を行っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家事の物音や匂い、季節の草花、節句のお菓子等、利用者の五感に働きかける生活環境を大切にしている。また、職員の立てる物音やテレビ等の音量は適切であり、日射しが強い場合には二重カーテンで調節する等、快適な空間作りが行われている。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた私物を持ち込んでもらうよう家族に働きかけており、位牌やテーブル、椅子等が持ち込まれ、個性のある居室となっている。		

※ は、重点項目。